

大阪市中教研会報

「中学校教育研究会に
期待すること」



大阪市立中学校長会

会長 中務 高俊



コロナ状況下での
研究活動の推進に向けて

大阪市立中学校教育研究会

会長 藤本睦子

今年度の中学校教育研究会数学部の全市研究発表会に、他教科の教員が参加されました。Teamsを活用した班学習の方法に興味を持ったからという理由でした。

これを聞き、「他教科や他領域の研究発表をもっと気軽に見ることができないだろうか」と思いました。所属する教科や領域の発表会に参加しつつ、他の興味深い発表も見ることができるようにすれば、それぞれの発表会への参加者も増え、参加した教員の知識や能力がより高まると考えるからです。

各教科や領域の発表を映像などで発信し、後日視聴できるようにすれば、他の教科や領域の発表を自由に見ることができます。著作権の問題や、多くの人に興味を持っていただくための「お知らせ」の工夫など、様々な問題点があるかもしれません、これから中教研でご検討いただければ幸いです。

しかしこれまでのよう、会員の皆様が集まって研究授業を見たり、研究発表を聞いたりすることは大きな価値があることで、これからも大切に続けていただきたいと願っています。研究授業の現場にいるからこそ感じることができる教室の空気感や、映像では紹介されないかもしれない生徒のつぶやきなど、その場にいないと伝わらないモノが、「教育」には大切だと考えるからです。授業の後の研究協議で、授業の現場でハダで感じたモノを意見交換することで、教員が新しい「価値」に気付くこともできることでしょう。

このように、これからの中教研は、これまでの活動を大切に守りながら、コロナ禍で培ったICTの活用力を活かして、研究活動の成果を、より多くの会員の皆様に効果的に還元していただきたいと願っています。

最後になりましたが、コロナ禍の中、感染予防に努めながら研究を進め、様々な工夫をして全市研究発表会を開催されました中教研役員や各部の皆様のご尽力に敬意を表しますとともに、ご指導・ご支援を賜りました大阪市教育委員会、大阪市教育センターの皆様に深く感謝申しあげます。ありがとうございました。

No. 138

編集者 大阪市立中学校教育研究会

発行人 大阪市立中学校教育研究会

会長 藤本睦子

大阪市立中学校教育研究会

大阪市立田辺中学校

TEL 06-6692-0117

一昨年度からの長期にわたるコロナ感染症拡大の影響により、従来行われてきた教育活動は大きな影響を受けています。授業時数の確保や学校行事の見直し等、教育課程の再編を余儀なくされました。収束の見通しが立たない状況下の中で、子どもたちの「学びの保障」に努め、教育活動の質を高めていくという課題に向き合う日々が続いています。さらに、今年度より新学習指導要領が全面実施されました。

コロナ禍の影響で一堂に参集することが難しい状況ですが、10月13日の全市研究発表会では、各教科・領域において、今できる多様な形態での研究活動を発表していただきました。このような厳しい状況のもとで創意工夫され、素晴らしい研究発表をしていただきましたことに敬意を表したいと思います。

さて、今年度から全面実施された学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」が理念として掲げられています。「資質・能力の三つの柱」「カリキュラム・マネジメント」など、学習指導要領における重要な事項全ての基盤となる考え方となっています。「よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創る」という目標を学校と社会とが共有する」「これから社会を創り出していく子どもたちに必要な資質・能力が何かを明らかにし、それを学校教育で育成する」「地域と連携・協働しながら目指すべき学校教育を実現する」という新しい時代に求められる質の高い教育活動に取り組んでいく必要があります。コロナ禍での研究活動は厳しいものがありますが、困難な時代だからこそ、本教育研究会の会員相互が情報を共有し、課題解決に向けて力を合わせていく時ではないでしょうか。今後も本研究会は会員の皆さまの研究活動の推進に力添えができるよう尽力してまいります。

最後になりましたが、本年度も、各研究部長様、各ブロック委員長様をはじめとする専門委員、会員の皆様方に多大なご尽力をいただきましたことに深く感謝申しあげます。また、ご指導・ご助言を賜りました大阪市教育委員会、大阪市教育センターの皆様方に厚くお礼申しあげます。

部門より研究活動・成果について

国語部

「生きる力」としての国語力の育成

—自分の思いや考えを深める言語活動の充実—

緋田 隆平 (鶴見橋中)

8月の各ブロック研究発表会では、感染拡大防止のため、集合研修ではなく資料配付による研修や、オンデマンド形式の研修を実施した。

第1ブロック…「指導と評価の一体化」のための学習評価および、新教科書を活用しての日々の授業、ICTを効果的に活用した授業についての各校の事例報告と情報交換の内容で準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大予防の観点から全て中止となつたので、各校で作成した「評価基準表」の収集を行つた。

第2ブロック…「言葉の発見 敬語の意味と種類」の単元の研修授業、研究協議を実施。指導助言を大阪市教育センター指導主事にいただいた。関連の資料を大阪市教育センターの [waku×2.com-bee](http://waku2.com-bee) に掲載し、共有を図つた。

第3ブロック…当初は各校より1名が「学習評価に関する資料」「授業に関する資料」を持ち寄つての集合研修を行い、その後自校での研修を実施する予定であったが、感染拡大予防のため、提出してもらった資料をまとめてPDF化し各校へ配付し、各校での研修に活用する形での研修に変更し実施した。

第4ブロック…研究テーマ「リーディングスキルを意識した授業づくり」に基づいて、昨年度、桃谷中学校で実践した単元「リーディングスキルテスト (RST)」を活用し、基礎的・汎用的読解力 (リーディングスキル) を育む」を、動画等のコンテンツによって報告した。

10月13日の全市研究発表会では、「複数の情報を関連づけて考えをまとめ、必要な情報をわかりやすく伝える②」の単元の全5時間の授業をあらかじめ録画しておき、YouTubeで各校へ配信し、授業を視聴した後、各校で研究協議を行う形式で実施した。子どもたちがICTを活用し、主体的に自分の興味・関心等に応じ他者と協働し、教科横断的な活動をもとにした豊かな言語活動を行い、実際の社会とつながった学びを獲得していく、そんな指導のモデルとなるような授業を提案できたのではないかと考える。

協議の結果については、GoogleFormsに入力してもらい、内容のまとめについては、すべての学校へ返信した。研究授業をYouTubeでの配信の形式にしたことについて87.4%が、研究協議を各校でシートを使っての協議の形式にしたことについて83.2%、研究協議のまとめをGoogleFormsに入力する形にしたことについて84%が「よかったです」と回答している。各校からは授業について様々な意見が寄せられ、それらすべてをすべての国語科の教員と共有できたことは大変有意義であった。

書写については、中文連書道部の活動を支援し、「『生きる力』を育む書写教育」を研究主題に取り組みを進めた。夏季休業中に講師の先生をお招きし、生徒向けの講習会（行書や篆刻）の実施を支援した。10月の総合文化祭では、作品発表や相互鑑賞の機会として作品を展示し、自尊感情を高める場として書道パフォーマンスの舞台発表に取り組んだ。令和4年2月に開催される生徒作品展に生徒の作品を出品する予定にしている。

社会部

持続可能な社会の形成者として、見方・考え方を深める社会科学習

小野寺 健 (新豊崎中)

- 研究主題に基づき、教科指導・授業実践・授業検討会等を通して研究活動を行つた。研究にあたつては、龍谷大学法学部准教授 中本和彦様にご講話、ご指導・ご助言をいただいた。
- 全市研究発表会の準備にあたつては、中本准教授にオンライン参加の形式で貴重なご助言をいただきながら進めることができた。また、全市研究発表会当日においても「内容のまとめ・単元で授業をつくるにはどうしたらよいか—単元『現代の民主政治』を事例として—」と題してご講演いただき、全市社会科教員に向けて多くの示唆を与えていただいた。

内容は、昨年度と同様にTeamsおよびGoogle meetで全市の中学校に配信し、公開授業は収録したデータを視聴する時間を設け、最後に中本准教授の講演を行う計画であった。しかし、公開授業が新型コロナウイルス感染症により実施できなかつたため、公開授業を授業者による研究発表に入れ替えた。

コロナ禍により様々な制約があった研究準備と研究発表であったが、研究を確実に進め、それを発信することができた。

- 大阪市立中学校総合文化祭の一環として、生徒研究発表会（展示部門）を実施した。
- 全国中学校社会科教育研究会東京大会に「会場参加」と「オンライン参加」の両方で参加し、全国の動向を把握するなどの成果があった。
- 近畿中学校社会科教育研究会奈良大会が紙面開催になり、奈良県の研究資料を社会部で共有した。
- 近畿中学校社会科教育研究会・大阪府中学校社会科教育研究会・堺市立中学校教育研究会との連携・交流を深めた。
- 会誌「社会科通信」を発行し、全校に配信した。

数 学 部

未来を創造する数学の主体的・対話的で深い学びをめざして

中 西 啓 (佃 中)

- ・数学部では、今年度の研究主題を「未来を創造する数学の主体的・対話的で深い学びをめざして」として取り組み、研究発表会は、3つの研究授業と講師先生の講演会で構成しました。
- ・前年に引き続き、コロナ禍の影響により、例年通りの活動が行えず、制限のある中でしたが、大阪市教育委員会、教育センター等の関係の皆様のご指導・ご助言、ご支援を賜り、創意工夫を凝らして、研究発表会を実施することができました。
- ・今年度の研究発表会は、3つの研究授業を天満中学校・日本橋中学校・天王寺中学校の3校で撮影した動画、和歌山大学教職大学院 教授 豊田 充崇 先生の「メディアを活用した『数学的活動』と『評価』のあり方」をテーマとしたご講演を撮影した動画等を「数学部特設サイト」で公開し、各校で視聴研修を実施しました。
- ・公開授業では、これまでの研究発表会の伝統を継承しつつ、ICT機器を活用するなど新しいスタイルを模索するなかで行うことができました。いずれの授業も、数学部として、脈々と大切にされてきた丁寧な授業づくりに取り組み、成果を積みあげ、大阪市の子どもたちの学力向上に一石を投じたのではないかと考えています。
- ・当日視聴していただいた皆様のご意見を「数学部特設サイト」で回答をお願いした「数学部アンケート」にて集約し、成果と課題を分析して大阪市中学校数学教育のさらなる発展を進めていく所存です。

———— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— * —————

理 科 部

主体的な対話を通し、未来を担う

科学的な思考・表現力を育む理科教育

渡 邊 哲 朗 (茨田 中)

今年度は昨年度の経験を活かし、当初よりブロック研も全市研も集合研修ができないことを想定して準備を進めた。ブロック研は大阪市立科学館 江越 航 学芸員を講師に迎え、「月をめぐるよもやま話」をお話しいただき、撮影した。ブロック研が中止となったが、視聴を全理科教員に促した。アンケートでは視聴した教員からの回答は概ね好評であった。

全市研もブロック研と同様に授業を撮影し、Youtubeにアップした。昨年度より動き出しが早かったため、今年度は少し余裕を持って本番を迎えた。ブロックごと2つ会場で視聴後検討会を行ったが、授業だけでなく一人一台端末や使用方法について議論が活発に行われた。アンケートでは全市研自体は好評であったが、方法については従来の方がよいという意見と今回の方がよいという意見、どちらでもよいという3つの意見がほぼ同数であった。コロナ禍が落ち着けば、一度従来通り行うことも視野に置きたい。

また、今年度も9月に大阪市生徒理科研究発表会を大阪市立咲くやこの花中学校で開催した。残念ながら審査だけの会であったが力作が多く、来年度以降も期待が持てる内容であった。

厳しい状況の中、大阪市中学校教育研究会および理科専門委員の皆様のご協力に感謝いたします。今後ともご支援よろしくお願ひいたします。

———— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— * —————

音 楽 部

未来を切り拓く、豊かな感性を育む音楽教育の創造

～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

有 田 伸一朗 (大 淀 中)

心の教育を担う教科「音楽科」では、令和元年度に研究主題を一新し、令和5年度近畿音楽教育研究発表会大阪大会に向け、4つの研究班による研究を進めています。

コロナ禍で様々な活動の場面において制限がかかる中ではありますが、年間を通して音楽科の目標である「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働きさせ、生活や社会の中の音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること」の達成に向けて、今年度も研究や研修を行いました。

ブロック研究発表会は「緊急事態宣言」の影響で中止となりましたが、1学期中に収録した授業録画と指導案を waku×2.com-bee を通じて音楽科教員に還元することにしました。全市研究発表会は、大阪教育大学 田中龍三 特任教授、大阪市教育センター 出口みか 総括指導主事に、講評と指導助言をお願いし、研究発表会を開催しました。新学習指導要領に沿った授業実践の発表を通して音楽の学力について考え、コロナ禍における研究班の現在の取り組み状況を確認しました。

桜宮中学校 川西孝亮教諭による鑑賞の公開授業、題材「義太夫節の旋律の特徴をつかみながら、文楽の三業一体の魅力に迫ろう」の授業（ビデオ映像）を参観しました。文楽の授業を通して、日本伝統音楽のカリキュラム、伝統音楽の授業実践について考えを深めました。研究発表は、歌唱研究班より、コロナ禍における1学期のカリキュラム及び配慮事項、実技テストの実施、新学習指導要領における歌唱の評価、2学期以降の歌唱を伴う行事、アンケート結果などについて報告がありました。また、ICT研究班よりデジタル教科書の活用、1人1台学習者用端末で活用できる学習者用コンテンツ、などについて報告がありました。そして何より、久しぶりに様々な情報交換ができたことが非常に大きな成果でした。

一方、府中音研と連携した夏季研修会では、文科省初等中等教育局教育課程課教科調査官 河合紳和先生を講師として「学習指導要領完全実施に伴う、音楽科教育の指導と評価について」、大阪市教育委員会総務部教育政策課 今村友美総括指導主事、堺市立浅香山中学校 雨水元輝教諭を講師として「GIGAスクールICT活用によ

る音楽科の授業実践について」という内容で研修を実施する予定でしたが、コロナ感染状況が拡大したため延期とし、12月27日に同内容で冬季研修会を行いました。

8月には国立音楽劇場で「文楽実技研修会」を行い、「菅原伝授手習鑑 寺子屋の段」について技芸員より作品の聴きどころや特徴など各種レクチャーを受けたり、実技研修として、義太夫節の実習や、太棹三味線の演奏を体験したり、多様な表現方法を体感し文楽の指導法と授業づくりについて研修を深めました。

今後は、令和5年度の近畿音楽教育研究大会大阪大会に向け、各研究班による研究を更に深めながら、音楽科組織として音楽科教育の質の向上と教員の実践的指導力の向上に取り組みます。

美術部

美術科の本質に迫る学習をめざして

～感性や造形感覚を高めるために～

石川文子(東陽中)

昨年度と同様に新型コロナウィルス感染症の感染拡大による影響は大きく、授業の短縮や慣れないオンラインでの授業など、子どもたちだけでなく教員にも先行きを見通せない状況に、不安やストレスにさらされることとなりました。美術科においては何よりも作品の制作から子どもたちを育成することを第一に取り組んでいるところです。しかしながら現場では授業時間の確保が課題となりました。それぞれの学校においてはこれまでに経験したことがないような苦労や困難に対応される日々が続いています。そのような予想困難な状況の中においても学校は何を教えるべきなのか、子どもたちにどのような力をつけるべきなのかを追求しなければなりません。

今年度、新学習指導要領は、本格実施となりました。本来ならさらに研究を深める時期ですが、残念ながら本研究会美術部においては、予定していた研究の一部を中止することになりました。しかしながら、できることをできる範囲で「美術科の本質に迫る学習をめざして～感性や造形感覚を高めるために～」を研究主題に活動を進めてきました。子どもたちが活躍する20年後、30年後の未来を見据えた教育が必要となります。今年度も子どもたちが意欲を高め、進んで美術の学習に取り組み、更には感性や造形感覚を高めるために全市研究発表会、各種展覧会(総合文化祭・美術展・美術部展 他)の運営において、さらに充実した取り組を進めることができました。特に今年度は、オンラインではありませんが北海道大会に参加することができ、美術部の研究を深めることができました。また、昨年度は中止した「造形展」も大阪芸術大学のご協力により開催することができ、800名もの集客がありご好評をいただきました。

厳しい状況下ではありましたが、いずれにおいても来年度につながる有意義な研究を進めることができました。

保健体育部

保健体育科授業における学びの質を高める

－球技(サッカー)の指導方法の研究－

田中城明(我孫子南中)

生涯にわたって豊かなスポーツライフに生かせるような学習内容とするため、サッカーの指導を通じて、学級の仲間と課題解決に取り組む楽しみを実感し、授業の楽しさを体験させる活動に取り組みました。

毎時間の基礎的・基本的な技能(ボール操作)練習を重ね、スキルテストにより上達を実感させるように取り組むとともに、より実践に近いミニゲームを多く取り入れ、楽しみながら基本技術であるドリブル、トラップ、シュートの習得を図るようにしてきました。それにより戦術的な練習に対しても気づきがあり、理解も深まりやすくなったりが成果であると考えます。

技術・家庭部

いのち輝く未来社会を実現(創造)する技術・家庭科教育

～深い学びへと導く、見方・考え方を働かせた実践～

村上美津子(新東淀中)

- ・全市研究発表会をオンデマンドで開催し、技術分野が「D情報の技術」において、「プログラミング能力と情報リテラシーの醸成」をテーマに研究発表を行った。本研究では、生徒が日常的に活用するSNSとゲームアプリケーションを題材にプログラミング学習を行い、課題解決活動を通じてツールを適切に選択し、運用する力を引き出すことができた。
- ・オンライン、オンデマンドで開催された第60回近畿地区中学校技術・家庭科研究大会(奈良大会)では、上記内容で研究発表を行うとともに他府県の公開授業及び研究発表を視聴し、新学習指導要領に示される問題解決学習の授業実践やコロナ禍における授業づくりの工夫について理解を深めることができた。
- ・第21回創造アイデアロボットコンテスト大阪市中学生大会兼近畿大会を開催し、基礎部門・計測制御部門・応用発展部門・独自部門に20校、84チームが参加した。各チーム、創意工夫したロボットを製作して競技を行い、課題に気づき解決する力を育み、技術・技能のさらなる工夫改善の機会を持つことができた。
- ・大阪市立中学校総合文化祭展示部門に参加し、実習・実技の成果の交流を図ることができた。
- ・令和5年度の近畿地区中学校技術・家庭科研究大会(大阪大会)に向けて府市合同技術家庭科研究会に参加し、研究主題に基づき、見方・考え方を働かせた実践研究を進めている。

英 語 部

英語で積極的にコミュニケーションを図る資質・能力を育成する

－ 5 領域のコミュニケーション能力を総合的に養う－

井戸本 崇志 (喜連中)

全市研究発表会においては、本年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、公開授業を行わなかった。また、講演に関しては、大阪教育大学 教授 加賀田 哲也 様をお招きして、「生徒のコミュニケーション能力を高めるための指導と評価」と題してご講演頂き、これから英語教育に関して、どのように指導・評価すれば良いのかを考える貴重な講演となった。全市研究発表会当日に、講演をオンデマンド配信で行い、全市の多くの英語科教員が視聴した。

———— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— * —————

道 德 部

多面的・多角的な視点で考え方議論する道徳教育の創造

－ペアワークやグループワークを取り入れた授業づくりを進める－

田中紹亮 (港南中)

土曜学習会・道徳教育推進委員会・全市研究会等の開催。特に、令和3年度 文部科学省「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」8校の取り組みにおいて、公開授業では、2年次の先生またベテランの先生が工夫を凝らし、主体的に参加型の授業づくりに挑戦されました。また、触発者の視点での教材を深めるペアワークの実践や気づき2を未来志向で自我関与させていく実践などが発表され、道徳実践力の向上を図ることができました。また、学習指導案集作成では、指導上の留意点には、学習指導要領のポイントや何を押さえて発問するかを掲載しています。多面的・多角的な視点で考え方議論する道徳の授業づくりに役立てる学習指導案集を作成することができました。

———— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— * —————

特別活動部

生徒一人ひとりが主体的に生きる特別活動の創造

進藤文代 (白鷺中)

特別活動部では「生徒会活動を中心とする特別活動」と「キャリア教育をはじめとする進路指導」の二本柱を取り組みを推進してきた。

全市研究発表会では、前半は大阪市立瓜破西中学校森田光教諭より「第65回全国特別活動研究協議大会埼玉大会の報告」を、本部長より「令和2年度大阪市スマホサミット報告」を発表した。

全国特別活動研究協議大会の報告では、「よさや可能性を発揮し合い、確かな資質、能力を育む特別活動」を主題に、埼玉県伊奈町立南中学校の「いいところ探しの木を作ろう」や東京都大田区立大森第三中学校の修学旅行中止に伴った代替行事「羽田空港思い出づくりプロジェクト」などの実践報告を交え、生徒に任せきりではない、教員の適切なかかわりの下での生徒主体の取組をうかがうことができた。学校行事を通じて計画的に生徒を育成していくことの重要性や育んだ力を将来生かしていくことの重要性について考えさせられた。

令和2年度大阪市スマホサミット報告では、大阪市スマホサミット開催の経緯や取り組み方法、スマホサミットまでの流れや当日の流れ、議論の内容やまとめなど細かく報告いただいた。スマホサミットは、スマートフォンの所持率アップに伴ったネット利用の時間増加やトラブルの増加、SNSを使った連れ去り事件の発生やネットいじめなどの社会的背景から、生徒が主体的に、スマホ問題を考え解決を見出す活動として、兵庫県立大学の竹内 和雄准教授をコーディネーターとして招き、大阪市の取組として開催した。

討議の柱は①ネット接続がなぜ長時間になるのか(やめられないのか)、②SNS利用について、③知らない人とのネットのやり取りについて、④ゲームでの課金についての4点について議論された。サミットの中では、「生徒同士・生徒会として合意形成を図りながら決めたルールは、大人から一方的に押し付けられたルールよりも守られる」という意見や、「ネットリテラシーを学ぶのに高校生になってからでは遅い。すでに小学生が被害に遭っている」など、的確な意見が挙げられた。また、中学生の話から、子どもから大人に「助けてほしい」「協力してほしい」という声が挙げられているということも分かり、大人と子どもが一緒になってスマホの使い方について考えていく必要性を感じた。令和3年度もサミットは開催されるが、更に子どもたちが主体的にスマホ依存の問題を解決していく論議を深めたい。

後半は、キャリア教育講演として、大阪企業家ミュージアムの廣田雅美様より、「大阪企業家ミュージアムの活用」～企業家の事績から学ぶキャリア教育～という内容で講演いただいた。

大阪企業家ミュージアムの「“企業家精神”とは何かを学び、旺盛な“企業家精神”をもった次代を担う人材を育成する。」という目的をはじめ、「企業家」の定義や企業家精神の七つのキーワード(志、変化、先見性、挑戦、創意工夫、自立自助、意志)など、詳しくお話しいただいた。また、学校向け事業として行っている出前授業の実例、その時の中学生の感想などをご講話いただいた。

企業家の事績はキャリア教育に通じている。大阪企業家ミュージアムを活用することで、子どもたちがわかりやすくかつ楽しくキャリア教育を学ぶことができる。ぜひ、多くの学校で活用されることを期待する。

今後も生徒会活動、キャリア教育の視点から特別活動の研究を進める取り組みを推進する。

生活指導部

生活指導上の今日的な課題を把握し、地域・関係機関と連携・協働した効果的かつ組織的な生活指導体制を研究する 屋島豊市(十三中)

研究発表では、新豊崎中学校 山中秀樹教諭より、4月に実施した令和2年度の各校における生活指導アンケート調査の結果と考察を報告し、大阪市内中学校が抱える課題を共有した。

分科会では、自傷行為と自死についての支援、指導などの意見交流を行い、後の講演会での質問へとつなげた。講演会では、大阪自殺防止センター理事長北條達人先生から『自殺に傾いた人への支援』について、10代の自殺者の現状と特徴、初期対応として、声かけと傾聴が大切だとご教示いただいた。急いで答えを出すことよりも誰かが自分に心配のまなざしを向け「大丈夫か？」その一言をかけることが自殺に傾いた人を助ける場合が多いという講演であった。

特別支援教育部

子どもたち一人一人が、共に学びに向かい 生きる力を育む教育をめざして 金森茂生(矢田西中)

研究活動について

「子どもたち一人一人が、共に学びに向かい 生きる力を育む教育をめざして」を研究主題に、新しい時代に対応する特別支援教育を目指し研究活動に取組んだ。

- ・第60回全日本特別支援教育研究連盟全国大会和歌山大会（誌上開催）
第8分科会(交流及び共同学習)において、大正中央中学校小笠原佐織先生が交流教育の取組を発表した。
- ・全市研究発表会

「思春期の子どものケア—発達障がいのある子どもが悩むこと—」と題して、大阪医科大学病院の金泰子先生の講演を、都島中学校より Teams 配信という形で実施した。発達障がいのある子どもへの理解につながる貴重な講演であった。質疑応答の時間が取れなかったのが残念であったが、後日質問に講師から返答いただき共有を図った。

- ・インクルーシブ研修会

昨年度までのインクルーシブ・フレッシュ研修会から名称を改め、「ダイバーシティ&インクルージョンの観点を取り入れた教育実践に向けて」を目的とした研修会を新たにスタートした。

交流行事について

大阪市中学校特別支援教育担任者会と協力して実施される合同うんどう会、ふれあいステイ、ふれあいディキャンプの全市的行事は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となった。生徒作品展は会場をアミティ舞洲に変更して計画してきたが、急激な感染拡大を受け中止した。

その他の

小中連携会議等幼稚園、小学校との連携では、来年度開催される近畿特別支援教育連絡協議会大阪大会(小学校主催)へ向けて、小学校と連携して準備を進めている。

保健養護部

養護教諭の専門性と資質の向上をめざして

吉田直子(住之江中)

- ・保健養護部では、本年度より新しい教育ブロックでの活動をスタートし、新しいメンバーで研究主題に基づき、各ブロックで共同研究を進めている。
- ・全市研究発表会では、第2教育ブロック(a北区・都島区・福島区)共同研究「生徒保健委員会活動の活性化をめざして」をテーマに発表された。各校の実践内容や工夫点などを情報交換し、検討していく中で、自校だけでは思いつかなかった新しい発想から、保健委員会活動の活性化を図ることができた。また活動を通じて保健委員がやる気を感じ、行動できたことに自信を持ち自己肯定感の向上につなげることができた。
- ・昨年度から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止していた学習会(「子どもの Well-Being を育むために」)をようやく11月実施することができた。しかしブロックの共同研究は感染拡大防止のため、集合する機会がなかなかとれず、研究に支障が出ている。

情報技術部

多様化する情報を活用する力を身につける

近 藤 正 宏 (本庄中)

情報教育部門・新聞教育部門・統計教育部門が互いに関連し合いながら、それぞれの発表を実施する情報技術部であるが、2年間のコロナ禍による影響の蓄積は大きく、3部門の合同協議会などが十分に持てなかつたことより、今年度の全市発表は見送った。しかしながら、ICT、様々なメディアツール、広範囲の情報を統計的に解き明かす研究と、それらを教育に生かす取組みを今後も進展させていくものである。

———— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— * —————

教育メディア部

「生きる力」と「感動する心」をはぐくむ教育メディアの研究

～学校図書館、放送・視聴覚教育を通して～

田 村 敬 子 (松虫中)

放送・視聴覚教育部門では、7月に「第88回 NHK 杯全国中学校放送コンテスト大阪大会」の企画・運営を行った。朗読・アンサンス・ラジオ番組・テレビ番組部門において、優れた発表を選出した。10月の全市研究会では、オンデマンド・ビブリオバトルを実施。動画で各校から書籍を紹介し、参加者に視聴・評価していただいた。また、和歌山大学大学院の豊田充崇教授にご講演いただき、学校で実践的に活用できるICTを活用した学習の進め方をご紹介いただいた。11月に開催された「第70回近畿放送教育研究大会滋賀大会」に参加し、本市から昭和中学校が実践報告を行った。

図書館教育部門では、「もっと図書館！」を作成・配信し、研究大会やコンクールの開催、結果発表などを知らせた。また、「第67回大阪市青少年読書感想文コンクール」「第39回大阪市読書感想画コンクール」の企画・運営を行った。規模は小さくなつたが、昨年度は実施できなかつた表彰式を行うことができた。「第47回近畿学校図書館研究大会」では、「ネットワーク」の分科会で、専門委員がこれまでの大阪市立中学校での取組を発表した。

———— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— * ————— * —————

教育課題部

未来を切り拓く力をはぐくむ教育課程の編成

上 田 明 (茨田北中)

研究主題のもと、全市研究発表会において、コリアN G Oセンター事務局長の金光敏氏より、「人権教育の視点から、不登校問題や子どもの背景に迫る支援の必要性」についてご講演いただく予定で進めていました。しかし、コロナ禍により講演会が中止となつてしまい、コリアN G Oセンター代表理事の郭辰雄（カク・チヌン）氏より「共生のための教育現場を」という論文資料をご提供いただくこととなりました。

この中で、コロナ禍がこれまであまり見えていなかつた社会の格差や分断を可視化したこと、共生を考えるうえで人権の理解が大切であること、共生のためには自尊感情を育まなければならないこと、在日生徒にとって自分のルーツやアイデンティティについて考えることが必要で、運命を変える人との出会い、一期一会が大事であることを示唆していただきました。さらに、日本で暮らす外国人の急増で、教育現場での日本語能力の向上や、家族状況・経済状況の配慮が必要となる課題があると指摘されています。

子どもたちに向き合い、寄り添わなければならない教職員に、幅広い角度からご指導をいただきました。これを機に、子どもたちの未来を切り拓く力を、さらに育んでいきたいと考えます。

ブロックより研究活動・成果について

第1ブロック

豊かな心の醸成と社会の変化や課題に対応できる資質・能力の育成

－「新たな学び」の実践と交流－

土屋 雅 (大桐中)

○学習指導要領が改訂され、各教科で教員相互の情報交換（交流）を望む声があがっていたが、今年度も感染症拡大の影響を受け、「ブロック研究発表会」の開催が見送られた。

しかしながら、いくつかの教科・領域では研究資料が提供され、研究成果の一部を共有することができたのではないかと思われる。

○感染症による休業もあり、各校でオンライン授業や一人一台端末の利用が加速し、ハイブリッド授業に取り組む学校も増えてきている。

また、教員のオンライン（オンデマンド）による研修も増え、10月13日に開催された「全市研究発表会」では、いくつかの教科・領域で活用されていた。

第2ブロック

主体的で、協働的な学び手を育む教育の創造

－「つながり」を生かした学びの場を通して－

井寄芳春 (横堤中)

ブロック研究主題のもと、教科・領域ごとに研究主題を設定し、研究計画を立て、研修や調査等を推進した。ブロック研究発表会（8月27日）に向けては、研修会、講演会、研究発表、研究協議等、専門委員の先生方を中心準備を進めた。コロナ禍の中、ブロック研究発表会はやむを得ず中止となつたが、研究成果を「waku×2.com-bee」に掲載したり、全市研究発表会（10月13日）に向けて研究を深めたりするなど、継続して研究活動を展開している。

現在、新学習指導要領の全面実施やGIGAスクール構想の進展等をふまえた研究を推進していくことが期待されている。今後とも、第2教育ブロックとしての、学校・教職員間のつながりを生かしながら、研究活動の裾野を広げていきたいと考える。

第3ブロック

豊かな心の醸成と持続可能な社会の創り手としての資質・能力の育成

－新しい未来の姿を想像した実践交流－

鍋谷賀都緒 (難波中)

本ブロックの研究主題をもとに、各部門の特性に応じた研究主題を設定し、事業計画にそって、調査・研究を進めた。

8月27日(金)を基準日としたブロック研究発表会は中止となつたが、各専門委員の先生方が中心となり、伝達研修、情報交換、事例報告、実技研修、研究協議、オンライン・オンデマンドによる研究発表・実践報告など、各教科・領域において創意工夫された交流が行われ、今後の各校の取り組みの参考になる内容となつた。

第4ブロック

豊かな心と未来を切り拓く力をはぐくむ教育の創造

畠野耕二 (阿倍野中)

・本年度も「ブロック研究発表会」は中止となりました。しかし、各校では自校の実態や課題をまとめ、教育環境を整備し対応してきたところです。

また、各教科研究部においては「個別最適な学び」「協働的な学び」を実施するにあたって、様々な各校の取り組みをまとめてきました。まさにその取り組みのまとめこそ成果でありました。

・新型コロナウィルス感染拡大の影響を受けた各校教育現場の2年間は、新たな課題を確認し、オンライン授業等の様々な対応もなされました。結果、その経験は「全市研究発表会」に十分活かされました。

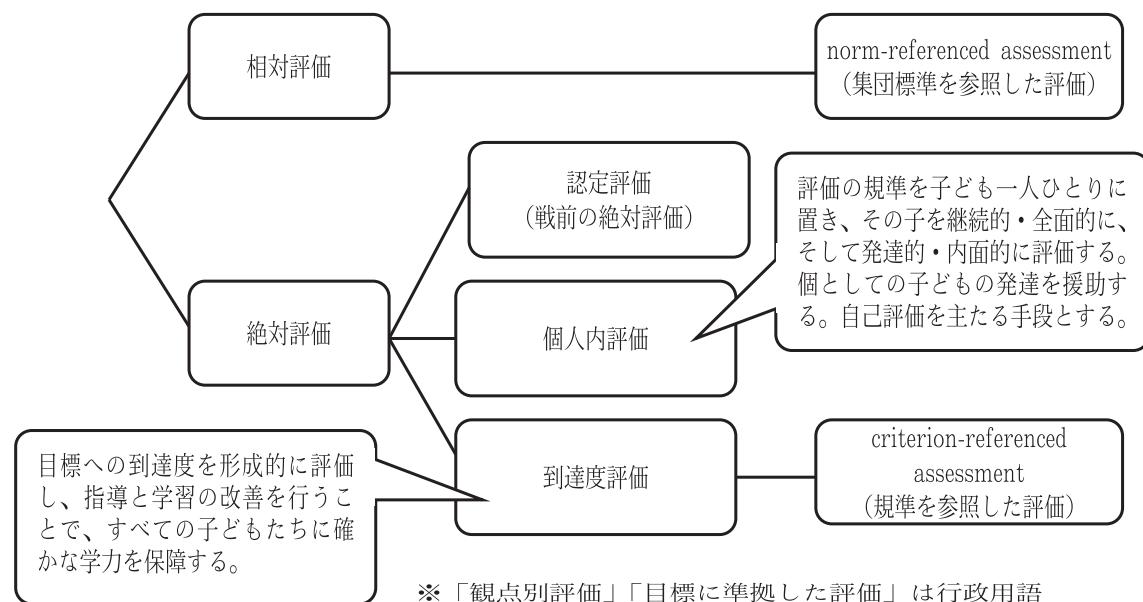
令和3年度 大阪市立中学校教育研究会・全体研修会

令和3年11月11日(木)
於: 大阪市教育センター

資質・能力の向上を促す、 指導・評価方法の工夫・改善について

大阪教育大学 准教授 八 田 幸 恵

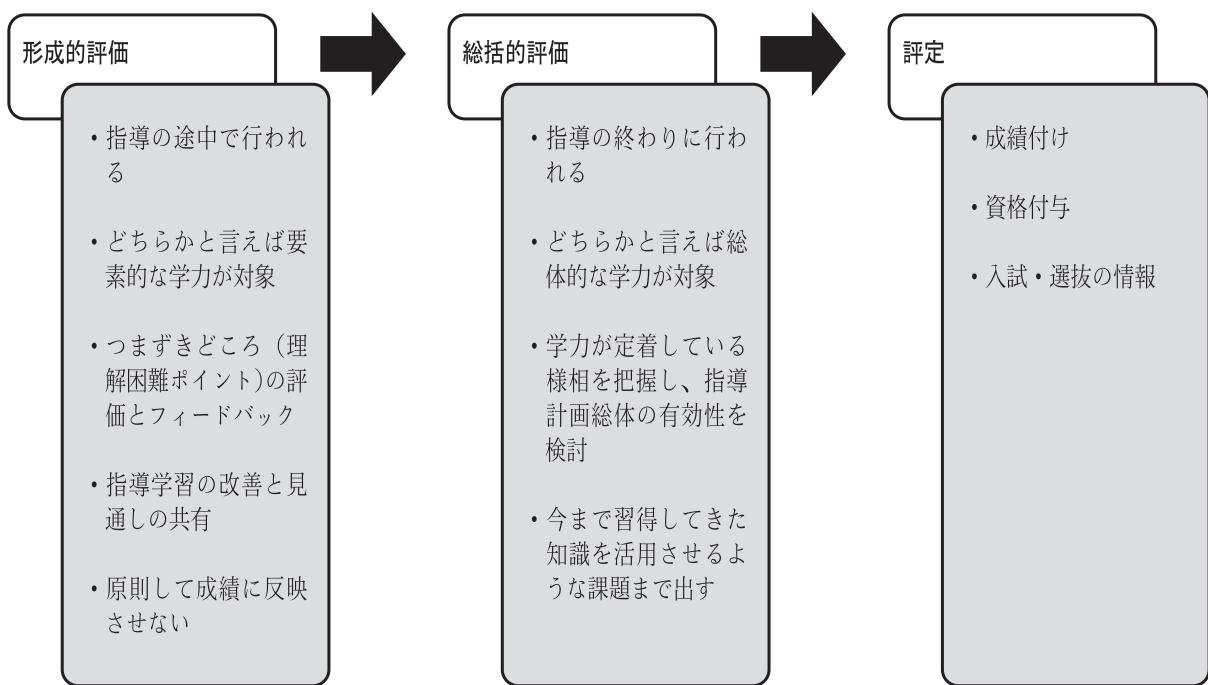
1. 教育評価の4つの立場



到達度評価が指摘した相対評価の問題点	到達度評価の主張
<p>①必ずできない子がいることを前提とする（素質決定論）</p> <p>②排他的な競争を常態化させ、「勉強とは勝ち負け」とする学習観を生み出す</p> <p>③集団における位置関係はわかるが、学力の実態がわからない</p> <p>④子どもの学力・学習状況を改善するために教育活動を改善するという発想を持たない</p>	<p>①すべての子どもたちに質の高い・生きて働く学力を</p> <p>②共通の目標に到達することを目指して、励まし合い、学び合う学習を</p> <p>③学力内容としての到達目標を評価規準に（何ができるほしか・何をわかってほしかを明確に）</p> <p>④教師の教育活動と子どもたちの学習活動の改善を</p>

- ・「観点別評価」「目標に準拠した評価」は到達度評価に近いが、「知識・技能」以外の観点、特に観点「関心・意欲・態度」があることによって、個人内評価、認定評価（戦前型絶対評価）、到達度評価が混在するという曖昧な性格だった。
- ・「観点別評価」「目標に準拠した評価」を到達度評価として実施できるかは、質的な評価方法と評価基準を開発できるかどうかにかかっている。

到達度評価における「形成的評価」と「総括的評価」の区別



- ・形成的評価＝テストではない
- ・つまずきを把握して乗り越えさせる指導
- ・子どもはつまずきながら学ぶ
- ・形成的評価の情報は評定には含めないという原則
- ・「教室は間違うところだ」

2. 指導要領改訂の歴史

「観点別評価」の観点の変遷

- ・「関心・意欲・態度」を廃止し、「主体的に学習に取り組む態度」の設定へ
- ・「目標に準拠した評価」を、教育活動の改善を目指す到達度評価として実施する

2010 年度改訂指導要録 評価の 3 観点	2019 年改訂指導要録 評価の 3 観点	2017 年度改訂学習指導要録 資質・能力の三つの柱
知識・理解 技能	知識・技能	知識及び技能
思考・判断・表現	思考・判断・表現	思考力、判断力、表現力等
関心・意欲・態度	主体的に学習に取り組む態度	学びに向かう力、人間性等

→目標と評価の一貫性（学習の目標と評価の観点が一致）

3. 資質・能力を育てる新しい評価方法と評価基準

「主体的に学習に取り組む態度」

観点設定の趣旨

- ・従来の「関心・意欲・態度」の評価では、挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動を評価するという事態が生じていた。

- ・本来ならば、「子どもたちが自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしたりしているかどうかという、意思的な側面を捉えて評価することが求められる」。
- ・「思考力・判断力・表現力」と同じ課題を通して評価することもあり得る。
→2017年改訂中学校学習指導要領参照

- ・キ ジュン

規準(criterion)－評価・解釈の規準を教育目標においてもの

基準(standard)－ある目標について、これがこうできていれば5、こうであれば4ということを示して、教師に子どもの目標に対する達成度を把握させるもの



令和 3 年度 大阪市立中学校教育研究会 評議員会記録

第 5 回 評議員会

令和 3 年 11 月 11 日 (木) 14:30~

於: 大阪市教育センター

- (1) 全市研究発表会について
- (2) 年間計画について
- (3) 研究集録『研究の歩み』『会報』について
- (4) その他
 - ① 小中一貫教育委員会実施について
 - ② 会計事務連絡
 - ③ 連絡事項

第 6 回 評議員会

令和 4 年 1 月 31 日 (金)

(紙面上で実施)

- (1) 本年度のまとめ
- (2) 本年度会計について
- (3) その他
 - ① 来年度の日程について
 - ② 中教研会報について
 - ③ ホームページについて
 - ④ 本部役員選考委員会について
 - ⑤ その他

令和 4 年度 大阪市立中学校教育研究会 組織改選等について (予定)

目 程	内 容	目 程	内 容
3月 下 旬	○書記より各校に、「部門別会員名簿作成依頼」を送付	5月 上 旬	○各部門の部長は、部長、副部長、会計、小中連携担当、ICT、HP担当及び専門委員の選出を行う。⇒書記に送付 (副部長は 2~3 名程度、専門委員は各ブロックに 3 名程度)
4月 8 日 (金)	○各学校において「部門別会員」を確認	5月 中 旬 { 5月 下 旬	①各ブロックにおいて委員総会を開催し、ブロック委員長、副委員長、会計、専門委員の選出を行う。⇒書記に送付 ※ブロック委員長と部長は原則兼ねない。 ※専門委員の選出の際は、各部長との調整を行う。 ②ブロックの研究主題を検討・決定する。⇒書記に送付
4月 15 日 (金)	○各学校より部門別会員名簿を書記に提出 ○本部役員選考委員会による本部役員の選考	4月 20 日 (水) { 4月 27 日 (水)	○中学校教育研究会全体会 ※本部役員の選出 ○各研究部 • 専門委員及び部長、副部長、会計、小中連携担当、ICT、HP担当を選出する。⇒書記に送付 • 研究主題等を決定する。⇒書記に送付
4月 20 日 (水)	○本部役員の指名、全体会の案内状を送付	5月 25 日 (水)	○各ブロック ブロックの教科・領域担当校長と各部長とで連携し、ブロック内の専門委員の追加・訂正を行う。
4月 中 旬 { 4月 下 旬	○書記より、各学校の部門別会員名簿を 17 部門の部長に送付 ○4 つのブロック委員長へ文書「ブロック委員長の役割」を送付 ○各ブロック委員長より各部門担当校長名簿 ⇒ 書記に送付 ○書記が各部長に各ブロックの担当校長名を連絡 ○各部長とブロック担当校長とで専門委員の調整	6月 中 旬	

※表中の提出・送付となっているところは、Skip による送受信で行う予定。

令和 4 年度の日程

中教研全体会 … 5 月 25 日 (水)
(9 月 2 日 金) ブロック研究発表会 実施の基準日
全市研究発表会 … 10 月 12 日 (水)

全体研修会 … 11 月 10 日 (木)
評議員研修会 … 1 月 30 日 (月)